

1. 構想の概要



【構想の名称】

GLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

大阪大学は学問の府として、「物事の本質を見極める」高いレベルの学問を追及するとともに、進取の気風と自由闊達な精神の下、時代を先取る独創的な学問に取り組んできた。今後、様々な学修段階において、能動的な学びと、知的統合や切磋琢磨を促す機会を多様に提供することで、常識や既成概念にとらわれず、グローバル社会における複雑で困難な課題に対し果敢に挑み、解決へと導くことができる人材を更に輩出していきたい。大阪大学は、スーパーグローバル大学創成支援事業の期間である2024年までに世界トップ30、そして2031年の創立100周年において世界トップ10の研究型総合大学へと進化することを目指している。21世紀のグローバル社会において「世界適塾」として貢献し、調和ある多様性から生まれる人間性豊かで平和な社会の実現に向け邁進する。

【構想の概要】

大阪大学の掲げる「世界適塾構想」では、様々な要因が複雑に絡み合っている地球規模の社会的問題を解決するとともに、最先端の科学や技術の発展を推進し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する、グローバル社会のトップリーダー、トップレベルの研究者、高度専門技術者を育成する。



推進体制の強化 Enhancing systems

未来戦略機構

Institute for Academic Initiatives

学内の多様な分野の知的資源を戦略的・部局横断的につなぎ、部局を超えた新たな学術領域の創造に取り組む。

Innovating new disciplines which cross conventional boundaries of study, strategically uniting intellectual resources from a diversity of fields.

世界適塾大学院 (仮称)

World Tekijuku Graduate School (provisional name)

大阪大学ならではのトップレベルの研究力を有する分野や、未来戦略機構を介し創造された新学術領域の研究分野を基盤とした「世界適塾大学院」(仮称)を2017年に設置。

The World Tekijuku Graduate School will be established in April of 2017, with foundations in Osaka University's top-level research and the novel fields of research developed by the Institute for Academic Initiatives.

学修イノベーション機構 (仮称)

Institute for University Learning Innovation (provisional name)

「知の統合学修」に係るプログラムや、主体的学修に係る教育活動を全学的に戦略化・体系化するための教学マネジメント拠点を2015年度中に整備。

An educational management center will be established by the end of March 2016, with the purpose of strategizing and systematizing university-wide management of educational programs to foster the proactive acquisition of knowledge and the study of integrating knowledge.

国際戦略推進機構 (仮称)

Office for International Strategic Promotion (provisional name)

教育研究の国際交流やブランディング戦略の展開等を全学的かつ戦略的に推進する組織を2015年度中に整備。

An Office for International Strategic Promotion will be established by the end of March 2016, tasked with strategically and comprehensively enhancing international exchange in education and research as well as branding strategy.

【10年間の計画概要】



【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

「世界適塾大学院」構想の始動

大阪大学ならではのトップレベルの研究力を有する分野や、未来戦略機構を介し創造された新学術領域の研究分野を基盤とした「世界適塾大学院」(仮称)を2017年に設置する。グローバルな教育環境の下、切磋琢磨しながら最先端の研究に取り組むとともに、研究成果を「社会的価値の創造」につなげることができる人材を育てる博士課程プログラムを確立する。世界適塾大学院での新たな教育・研究のスタイルを今後、全学展開し、大学院教育システムの抜本改革や、国際的な競争力を有する新学術領域の開拓を進める。

【海外の大学との連携の推進方策】

国際共同研究の拠点となる国際ジョイントラボを大幅増加(2023年までに現在の22を100へ)させ、今後国際的に認知されることが見込まれる新たな研究領域を含め、各領域における研究力の向上と国際プレゼンスを発揮する。カリフォルニア大学のオフィス(UC/UCEAP大阪オフィス)の誘致(2014年12月開所)、海外4拠点の機能を「点から面へ」「都市から地域へ」への強化、大学間協定数の更なる増加(本構想期間中に99→130)、国際的ネットワーク(APRU, AEARU, RENKEI, HeKKSaGOn)等により、世界各地の教育・研究拠点との連携体制を強化する。

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

① 大阪大学国際戦略の策定

単なる人物交流を中心とした「国際交流」ではなく、教育・研究・国際貢献の各分野における組織的な「国際戦略」を推進するため、全学的見地に立ったグローバル化に関する施策の企画と実行に係る方策を一つの戦略としてまとめた。

② 米国カリフォルニア大学の大阪オフィスを誘致

世界トップレベルの研究大学である米国カリフォルニア大学の大阪オフィスを誘致し、カリフォルニア大学方式の英語によるグループ討論型のインタラクティブな演習型特別講義の開催等を通して、海外留学等の自己啓発を促進した。

③ 「国際共同研究促進プログラム」の推進

国際共同研究室(国際ジョイントラボ)設立のための足がかりとして、「国際共同研究促進プログラム」を推進し、オックスフォード大学やカリフォルニア工科大学など、既に13カ国の22機関との間で国際ジョイントラボを形成した。

④ 「国際共同研究促進プログラム(短期人件費支援)」の創設

国際共同研究を更に促進するため、優れた外国人教員の招へいを目的として、「国際共同研究促進プログラム(短期人件費支援)」を創設し、53件の研究課題を採択した。

ガバナンス改革関連

① 世界適塾大学院構想の始動

年俸制の全面的導入、若手教員や外国人教員の高い比率や英語を公用語にするなど、将来の大阪大学の姿を先取りするような組織として、異分野の統合や新学術領域の創造に関わる「知の統合学修」を、高次元かつ個性豊かなプログラムを基盤としながら実現する世界適塾大学院(仮称)の2017年4月設置を目指して、設置検討委員会を設置し検討を進めた。

② 年俸制

人事・給与制度の柔軟化と併せて、「世界トップ10」の研究型総合大学を目指すための方策として、年俸制対象者を拡大した。

③ クロス・アポイントメント制度

(独)理化学研究所との協定締結を行い、当該研究所の研究者を受入れたことをはじめとして、国内2件、海外29件、合計31件の協定を締結した。

教育改革関連

① 「世界適塾入試」※3

高等学校において、知識技能だけでなく課題研究など主体的な学びを体験した人材を獲得するために、2017年より全学部で総合的な選抜方式の「世界適塾入試」を実施することを決定し、概要を発表した。

② 新たな私費外国人留学生特別選抜の実施

多様な入試制度の検討・開発を行うグローバルアドミッションズオフィス(GAO)において、優秀な学生を確保するため、海外の高校生を対象に、渡日前に母国での受験が可能な新たな入試「海外在住私費外国人留学生特別選抜」を新設・開始した。

③ マルチリンガル・エキスパート養成プログラムの開発 ※1

英語に加えマイナー言語を修得し、グローバル化するあらゆる社会的活動の中で通用性を持つ「多言語・多文化に係る理解力」を有するとともに、人文社会系の専門性も生かして社会に貢献できる大阪大学ならではの新たなタイプの人材養成プログラムを開発した。

④ TA制度の改革 ※2

補助的な教育業務の内容を自ら計画し、授業の進行管理を行いつつ、教育を展開することを主たる業務内容とする、全国的に見ても先進的なティーチング・フェロー制度(TF)の導入に向け、2015年に試行実施するための準備を進めた。

⑤ ダブル・ディグリー・プログラムの開設

国際的に活躍できる人材の育成を目的に、海外の大学との協定に基づき両大学の学位を取得できるダブル・ディグリー・プログラムの開設を推進、2014年は新たに9件の協定を締結した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

① トムソン・ロイター社ESI分野別被引用数ランキング30位以内の分野数の増加

本構想期間中にトムソン・ロイター社の分野別被引用数ランキングで30位以内に入る分野を10分野にすることを目標とする。2014年度は、前年度の3分野(免疫学、化学、材料科学)に加え、生物学・生化学が30位以内に入り、合計4分野となった。

② 大学間協定の更なる増加

国際的ネットワークの構築のため、本構想期間中に大学間協定数を130校まで増やすことを目標とする。2014年度は、前年度の99校から5校増え、104校となった。また、2015年6月1日現在、105校に増え、順調に増加している。

■ 国際的評価の向上につながる取組

① 「国際共同研究促進プログラム(国際ジョイントラボ)」の推進 ※1

国際共同研究の拠点となる国際ジョイントラボを大幅増加(2023年までに現在の22を100へ)させ、今後国際的に認知されることが見込まれる新たな研究領域を含め、各領域における研究力の向上と国際プレゼンスを発揮する。

② 国際広報等の充実

大阪大学未来戦略フォーラム「世界大学ランキングと国際的研究評価を問う: 現状・課題・展望」を本学が主催、また海外の主要なランキング誌・論文誌等を活用した国際広報を実施した。

③ 環太平洋大学協会(APRU)第19回年次学長会議を大学がホスト校として大阪で開催

【海外の大学との連携の実績】

- ◆ 2014年12月にカリフォルニア大学のオフィス(UC/UCEAP大阪オフィス)を誘致。
- ◆ 「国際共同研究促進プログラム(短期人件費支援)」を創設し、53件を採択した。

これらに加え、研究大学強化促進事業を活用して、

- ◆ 「国際合同会議(シンポジウム)助成事業」(15件採択)、
- ◆ 海外への研究者派遣プログラム(9件採択)、
- ◆ 海外からの研究者受入れプログラム(3件採択)を実施した。



米国カリフォルニア大学の大阪オフィスを誘致



① 国際ジョイントラボ合同発表会の様子



② 大阪大学未来戦略フォーラムの様子



③ 環太平洋大学協会(APRU)第18回年次学長会議の様子

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

- ① **国際戦略推進室の設置 (2016年4月よりグローバルイニシアティブ・センター)**
国際広報戦略、国際クラウド、国際協力、の活動に係る全学的なコーディネートを行う体制を整え、各ユニットを設置した。
留学生向けの広報媒体として、ポータルサイトを新たに開設
研究成果の海外発信を強化し研究成果公表サイトの閲覧数前年度比60%アップ、特に英語圏からの閲覧数70%超の増加
- ② **カリフォルニア大学との学術交流**
2015年12月に、UC/UCEAP大阪オフィス開設1周年記念国際シンポジウムを開催した。次頁※4参照
カリフォルニア大学(以下UC)の学生を対象とした複数のサマープログラムを実施し約50名の学生を受入れた。
また、UCからクロス・アポイントメント制度を利用して、2名の教員を雇用し、交流を深めた。
UCサンフランシスコ校の名誉教授による英語での特別講義(グループ討論型のインタラクティブな演習)を年9回実施し、延べ130名の学生・教職員が受講した。
- ③ **国際共同研究促進プログラムの推進**
国際ジョイントラボ設立のための足掛かりとして、「国際共同研究促進プログラム」を推進しオックスフォード大学やカリフォルニア工科大学等16か国41機関との間で35拠点の国際ジョイントラボを形成した。

ガバナンス改革関連

- ① **OUビジョン**
創立90周年にあたる2021年を見据えた第3期中期目標期間の6年間を「進化の期」と位置づけ、たゆまぬ自己変革の指針を「OU(Osaka University)ビジョン2021」として策定した。
- ② **COデザインセンター構想**
「知と社会の統合」を可能にする高度汎用力を修得し、イノベーションや複雑な社会的課題の解決を推進できる人材育成・輩出のための全学センター設置の検討を始めた。
- ③ **年俸制**
多様かつすぐれた人材を確保するため、2015年4月より業績変動型年俸制の対象者を拡大し、新たに200名を超える教員に年俸制を適用した。
- ④ **クロス・アポイントメント制度**
国立大学法人、大学共同利用機関法人、国立研究開発法人等(国内10件、海外36件、合計46件)との協定締結を行い、クロス・アポイントメント制度を活用した教育研究等を実施した。

教育改革関連

- ① **スーパーグローバル大学創成国際シンポジウムを開催** 次頁※5参照
- ② **英語力強化のための語学教育の改善**
TOEFL-ITP試験を実施し、スコアを共通教育英語の授業成績に組み込み(30%)英語カリキュラムの改善を図った。習熟度の高い学生のスピーキング力、ライティング力の強化のため対話型少人数英語上級クラスを開設した。また、日本人学生の語学力強化のため、実践英語力強化講座を実施した。
- ③ **全授業科目のシラバスの英語化**
シラバスの英語化を円滑に進めるため、「シラバス作成のためのハンドブック」の英語化及び日本語シラバスにおける頻出表現の抽出と英訳を行った。
- ④ **マルチリンガル・エキスパート養成プログラム**
外国語学部の学生が文系学部(文学部、人間科学部、法学部、経済学部)の教育課程を副専攻として履修できる教育プログラムを開講し、初年度にあたる2015年度には、32名が履修を開始した。
また、学会等での研究発表を念頭に置いたアカデミックな英語発表能力を強化するため、ネイティブ講師による英語プレゼンテーションの個人指導を行うAcademic English Support Desk プログラムを実施した。
- ⑤ **先進的高大連携**
第3回兵庫県「国際問題を考える日」を主催、「大阪府進学指導特色校(GLHS)合同発表会」、「第1回近畿地区スーパーグローバルハイスクール校・SGHアソシエイト校課題研究発表会」を共催し、各都道府県や高等学校との連携を深めた。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

ダブル/ジョイント・ディグリー・プログラムの増加

2015年度は、新たにダブル・ディグリー・プログラムの協定を12件締結し、計画を前倒して達成した。

大学間協定の更なる増加

国際的ネットワークの構築のため、本構想期間中に大学間協定数を130校まで増やすことを目標とする。2015年度は、前年度の104校から5校増え、109校となり、順調に増加している。

■ 国際的評価の向上につながる取組

① 2つの国際シンポジウムの開催

(1) UC/UCEAP大阪オフィス開設1周年記念国際シンポジウム「キャリア形成とグローバル化」(2015年12月) ※4

UCアーバイン校のキャリアセンター長を招き、基調講演や学内外の有識者によるパネルディスカッションを行った。



① (1) 国際シンポジウムにおけるパネルディスカッションの様子

(2) スーパーグローバル大学創成国際シンポジウム「新しい教養の学びとその質保証(Quality Liberal Learning)」(2016年1月) ※5

国内外から講演者を招へいし、基調講演や事例報告を行うとともに、教育の国際通用性の向上とグローバル化推進の観点から実施した本学の教育制度や特徴的なプログラムの取組を紹介し、教養教育の運営や評価にかかわる重要な課題と解決策について議論を行った。



② (2) スーパーグローバル大学創成国際シンポジウム基調講演の様子

② 国際共同研究促進プログラムの推進

国際共同研究の拠点となる国際ジョイントラボを大幅増加(2023年までに2014年度当初22拠点を100拠点へ)させ、今後国際的に認知されることが見込まれる新たな研究領域を含め、各領域における研究力の向上と国際プレゼンスを発揮する。

③ 国際広報等の充実

国際共同研究の成果を広報記事(Research Highlights)として作成し、ウェブサイトに掲載するとともに、国内外の研究者に対しメール配信を行った。また、書籍「世界大学ランキングと知の序列化・大学評価と国際競争を問う」※6を2016年3月に上梓した。

④ 環太平洋大学協会(APRU)第19回年次学長会議を大学がホスト校として大阪で開催

環太平洋地域のトップクラスの研究大学の学長で構成される学長会議の年次総会を2015年6月に開催。“University as an Agent for Global Transformation”(グローバルな変革の主体としての大学)をテーマに掲げ、21世紀における大学のミッションを再考し、グローバルな変革の主体的な担い手としての大学の役割について議論を行った。25大学の学長を含む106名の参加を得た。



⑤ 環太平洋大学協会(APRU)第19回年次学長会議の様子

【海外の大学との連携の実績】

- ◆ 「国際共同研究促進プログラム(短期人件費支援)」を継続し、2015年度は54件を採択した。

これらに加え、研究大学強化促進事業を活用して、

- ◆ 「国際合同会議助成事業」(12件採択)、
- ◆ 海外への研究者派遣プログラム(7件採択)、
- ◆ 海外からの研究者受入れプログラム(1件採択)を実施した。



大阪大学国際共同研究促進プログラム

■ 日本で最も革新的な大学、世界18位を獲得

2015年ロイター社発表のThe World's Most Innovative Universitiesにおいて、世界で18位、日本で1位にランキングされた。(2015年ロイター社作成 革新的な大学ランキングトップ100より)

※6 基となるフォーラムは前々頁、平成26年度：国際的評価の向上につながる取組②参照